

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-150156

(P2003-150156A)

(43) 公開日 平成15年5月23日 (2003.5.23)

(51) IntCl⁷

G10G 7/00

識別記号

F I

G10G 7/00

テマコード(参考)

Z 5D082

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2001-395442(P2001-395442)

(22) 出願日 平成13年11月8日 (2001.11.8)

(71) 出願人 501497161

池村 修司

大阪府摂津市島飼野々1丁目13番2号

(72) 発明者 池村 修司

大阪府摂津市島飼野々1丁目13番2号

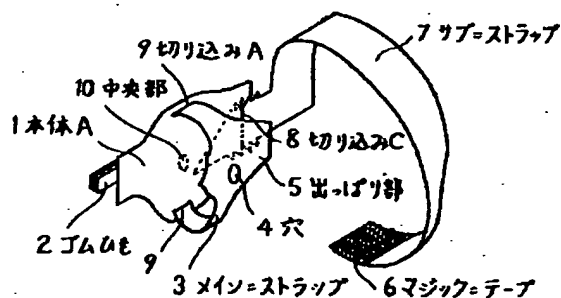
Fターム(参考) 5D082 DD01 DD10 DD13

(54) 【発明の名称】 エレキ=ギターのピックを正しく用いるための補助具

(57) 【要約】

【課題】 この発明は、ピックの着脱が可能な約0.5ミリ厚のシートにストラップを設け、そのストラップにて親指に装着することで、正しいピックの持ち方・使い方を容易にする補助具を提供する。

【解決手段】 本体A(1)と本体B(13)を両者の中央部(10)で接合し、長さが調整出来るメイン=ストラップ(3)を本体A(1)に通して本体B(13)に接合し、長さが調整出来るサブ=ストラップ(7)を本体A(1)に接合する。そして本体B(13)の両端にゴムひも(2)を設け、そこに専用ピック(11)を装着する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】(イ) 本体A(1)と本体B(13)を、両者の中央部(10)で接合する。

(ロ) 長さを調せい出来るメイン＝ストラップ(3)の両端を、本体A(1)に通して本体B(13)に接合する。

(ハ) 長さを調せい出来るサブ＝ストラップ(7)を、本体A(1)に接合する。

(ニ) 本体B(13)の両端にゴムひも(2)を設け、そこに専用ピック(11)を装着する。

以上のように構成された、エレキ＝ギターのピックを正しく用いるための補助具。

【請求項2】ゴムひも(2)を用いず、本体B(13)に専用ピック(11)を直接装着する、請求項1のエレキ＝ギターのピックを正しく用いるための補助具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、ピックの着脱が可能な約0.5ミリ厚のシートから成る本体にストラップを設け、そのストラップにて親指に装着することにより、エレキ＝ギターを弾く際の正しいピックの持ち方・使い方を容易に実現する補助具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、親指とひとさし指でつまむようにピックを持つが、その際力入れ具合にコツがあって、その修得はむずかしい。また、エレキ＝ギターは独学が主流なため悪いクセのつくことが多く、後でそれをきょう正するとすれば、初心者の場合よりむしろ苦勞する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この問題に対応するといえる従来のものに、上部をクリップ状に成型しその部分で親指に固定するものがある。しかし、正しくピックが動かないなど、エレキ＝ギターへの実用性は低い。本発明は、その欠点を除いて、指に持つ場合のわずらわしさを解消すべく開発されたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】いまその解決手段を図面に追いながら説明すれば、

(イ) 本体A(1)と本体B(13)を、両者の中央部(10)で接合する。

(ロ) 長さを調せい出来るメイン＝ストラップ(3)の両端を、まず本体A(1)の切り込みA(9)に通し、次に本体B(13)の切り込みB(12)にさし込んで接合する。

(ハ) サブ＝ストラップ(7)の一端を直角に延長した長さ調せいの可能な部分を、本体A(1)の切り込みC(8)にさし込んで接合する。

(ニ) 本体B(13)の両端にゴムひも(2)を設け、その輪(14)に専用ピック(11)のフック(16)を掛けて、専用ピック(11)を装着する。

以上の構成からなるエレキ＝ギターのピックを正しく用いるための補助具である。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明は以上のような構造であるから、これを使用するときは、メイン＝ストラップ

(3)の穴(4)の中に親指のツメの付け根が覗くように位置を定め、そこから奥へ行かないようにメイン＝ストラップ(3)の長さを調せいし、同時に指先側へメイン＝ストラップ(3)がずれないように、親指第1関節の後ろにサブ＝ストラップ(7)の接合位置を調せいする。そして、メイン＝ストラップ(3)の出っぱり部(5)が指の中央へくるように親指へ装着し、サブ＝ストラップ(7)をマジック＝テープ(6)等でとめれば、おのずと正しい位置に補助具は固定される。

【0006】なお、本発明の実施にあたって、次の如きことが出来る。

(イ) 専用ピック(11)の装着に関して、ゴムひも(2)を用いず、本体B(13)に直接装着する。

(ロ) 例えば、メイン＝ストラップ(3)を黄色・サブ＝ストラップ(7)は赤色という具合に、アクセサリ一感覚で使用する。

(ハ) 本体A(1)と本体B(13)の素材に透明なものを用いて、装着位置を確認しやすくする。

【0007】

【発明の効果】従って、初心者や悪いクセをつけた経験者に、正しいピックの持ち方・使い方を、容易に修得させる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の斜視図である。

【図2】本発明の実施の形態を示す背面図である。

【図3】本発明の正面部分図である。

【図4】本発明の本体へのゴムひもの設置手段を示す上面断面部分図である。

【図5】本発明の本体にピックを装着した状態を示す正面部分図である。

【図6】本発明の他の実施例を示す正面部分図である。

【符号の説明】

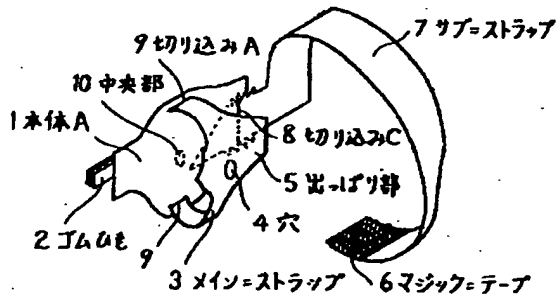
- 1 本体A
- 2 ゴムひも
- 3 メイン＝ストラップ
- 4 穴
- 5 出っぱり部
- 6 マジック＝テープ
- 7 サブ＝ストラップ
- 8 切り込みC
- 9 切り込みA
- 10 中央部
- 11 専用ピック
- 12 切り込みB
- 13 本体B

14 輪

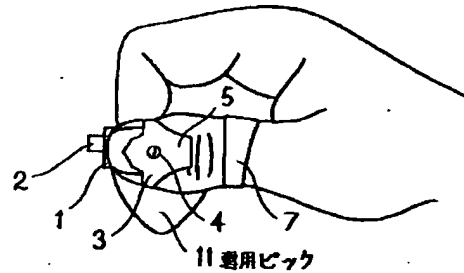
15 接着部

16 フック

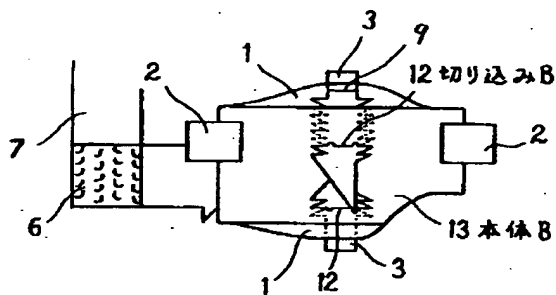
【図1】



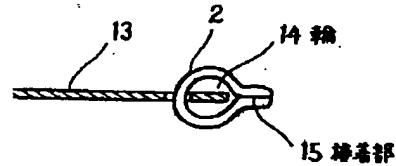
【図2】



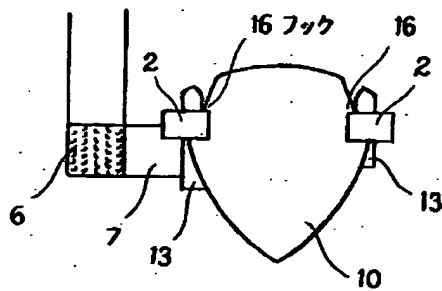
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

